

沼袋駅周辺地区のまちづくりを進めています
～地域と協働したまちづくり～

まちづくりの方向性

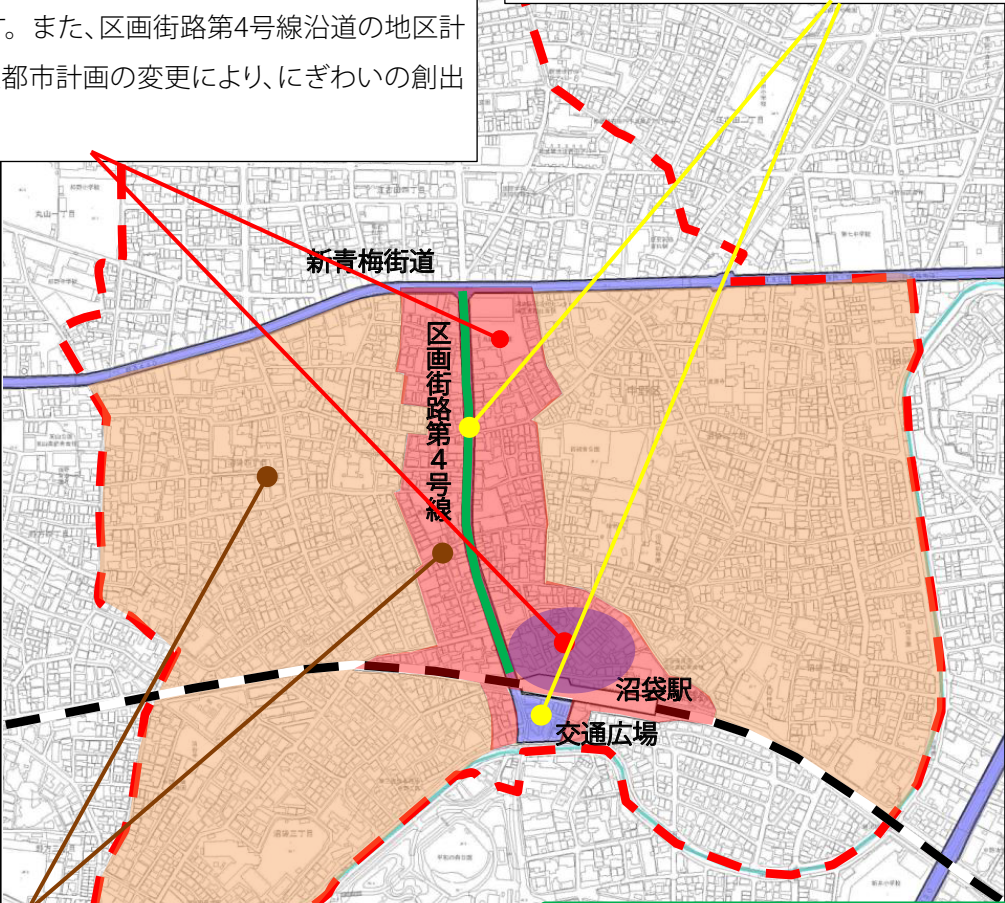
沼袋駅周辺は、駅前空間の魅力の低下や交通結節機能の不足が懸念されています。また、木造住宅密集地域である区画街路第4号線（バス通り）の東西の住宅地では、防災性の低さなどの課題を抱えています。区はこうした課題の解決に向けて、2017年5月に「西武新宿線沿線まちづくり推進プラン」を策定し、**まちの将来像を実現するため、4つの具体的なまちづくりの取組み（施策）**を示しました。

施策① 新たなにぎわいの創出

駅前周辺エリアの建物の共同化や再開発等により、生活利便施設（商業施設など）を充実させることで、子育て世帯や高齢者世帯などの、多様な世代が集い暮らすまちづくりを目指します。また、区画街路第4号線沿道の地区計画の策定や関連都市計画の変更により、にぎわいの創出を図ります。

施策② 交通基盤の強化

区画街路第4号線の整備により、交通環境の改善と駅前の交通結節機能の強化を図ることで、沼袋駅周辺における交通の安全性や利便性の向上を目指します。



施策③ 防災性の向上

地区計画の策定や関連都市計画の変更、都市防災不燃化促進事業の活用による、区画街路第4号線を中心とした延焼遮断帯の形成や、地区施設道路の位置づけによる道路ネットワークを形成し、防災性の向上を図ります。

施策④ 自然や歴史文化資源を活用したまちづくり

駅周辺に豊富に点在する歴史文化資源へのまち歩き・回遊を誘導するための環境を整備します。

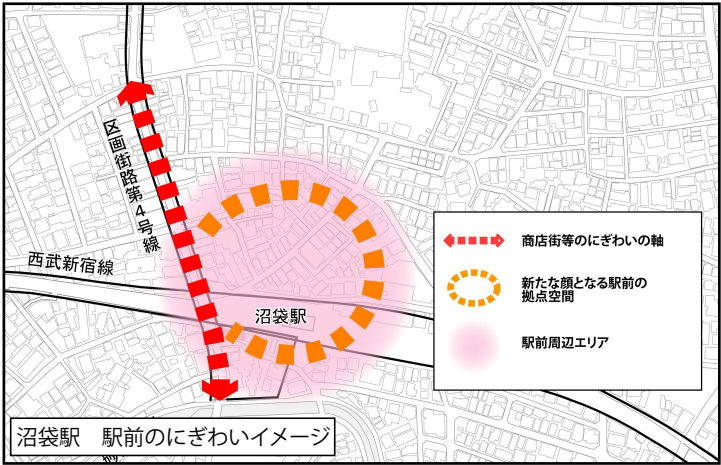
上記の4つの施策に対応した具体的なまちづくりの取組み（施策）を実施し、まちの将来像である「妙正寺川と豊かな緑に恵まれ、憩える生活環境があるまち」を実現します。

まちづくりの取組み状況

施策① 新たなにぎわいの創出

市街地再開発事業等の検討

駅前周辺エリアでは、地権者による建物の共同化や再開発などをテーマとした勉強会の開催を目指し、区が支援していきます。



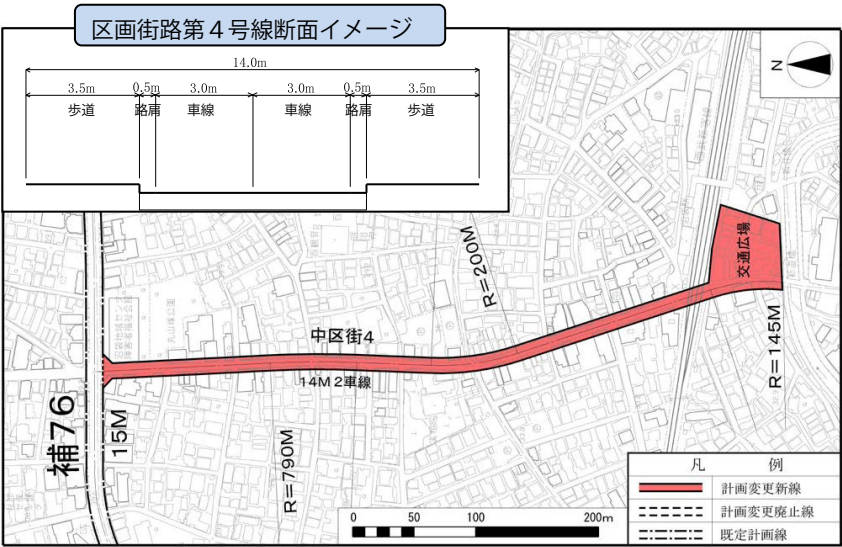
主な展開（年度）	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
①新たなにぎわいの創出										
街区の再編										

施策② 交通基盤の強化

区画街路第4号線の整備

【2017年8月9日事業認可取得】

区画街路第4号線は、現在の幅員6mの一方通行道路から、幅員14mで歩道のある2車線相互通行の道路に拡幅整備するとともに、沼袋駅南側に約2800㎡の交通広場を整備します。2017年8月に事業に着手し、2025年度末の事業完了を目指して進めてまいります。用地取得の手順としては、交通広場部分から着手しており、今後、商店街部分へ順次進めてまいります。

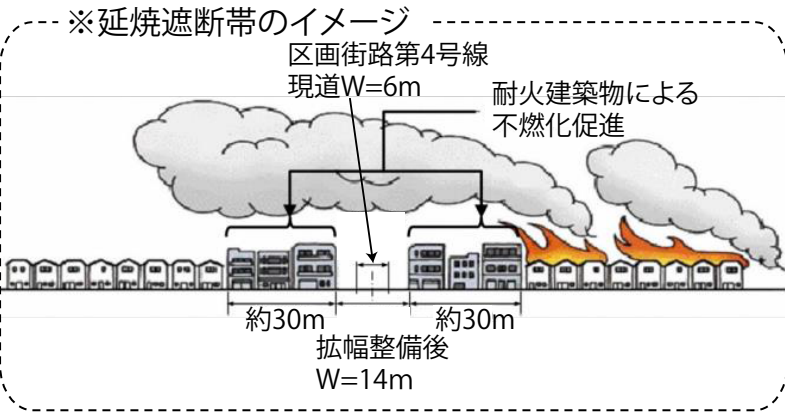
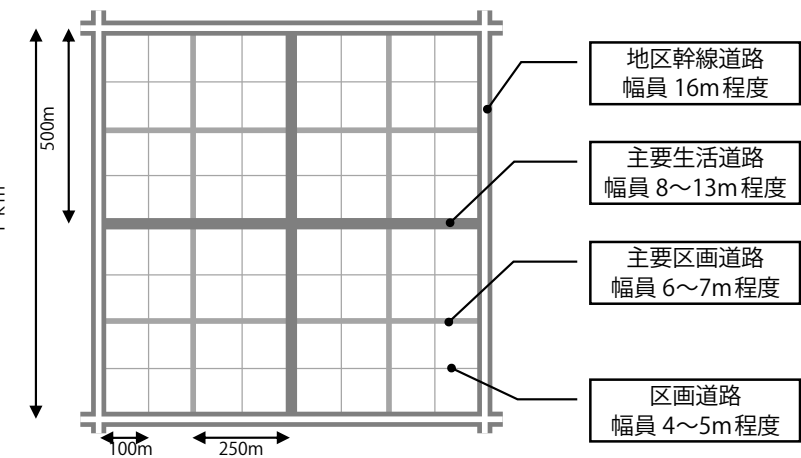
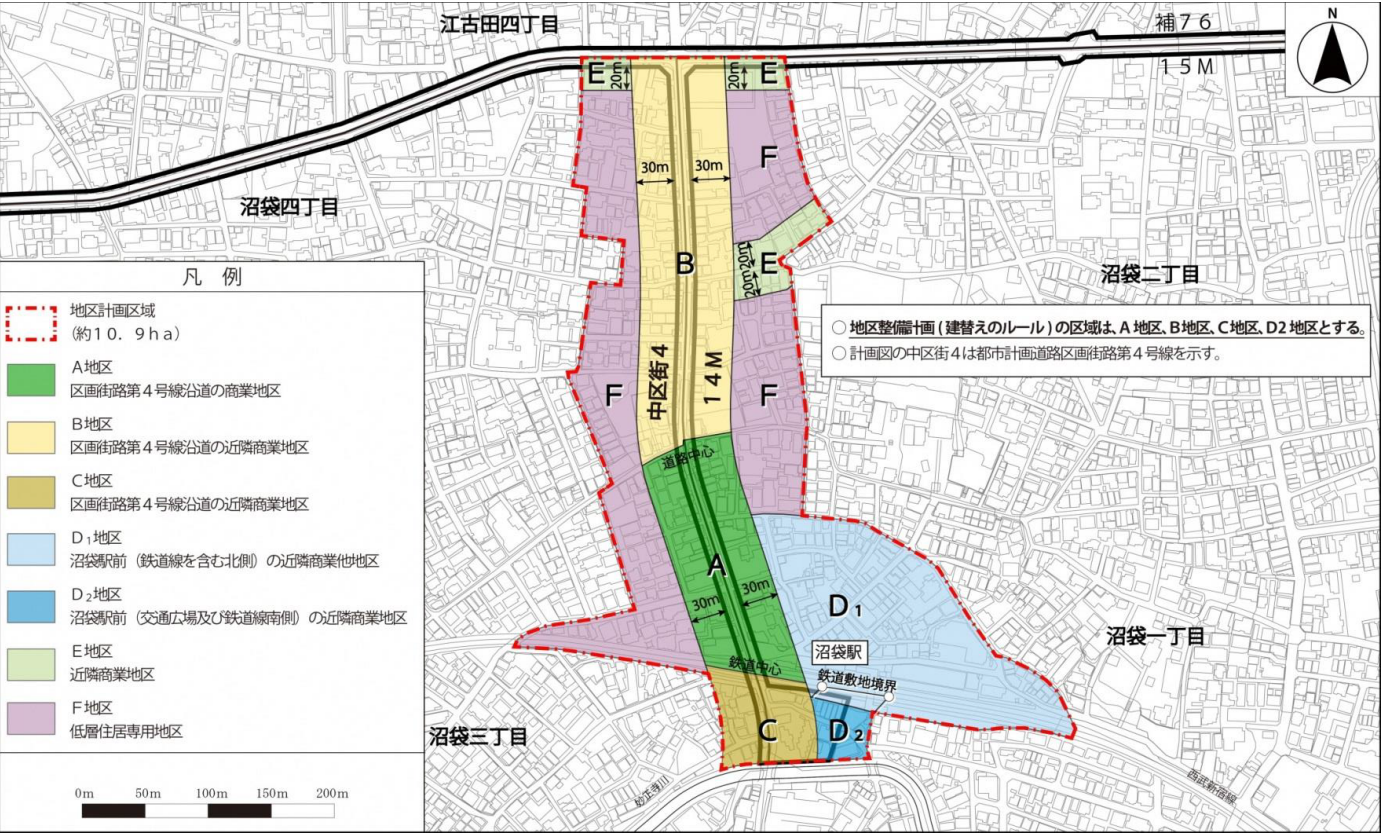


主な展開（年度）	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
②交通基盤の強化										
交通広場部分の整備		用地取得				交通広場整備				
商店街部分の整備		道路の空間構成の検討								
			用地取得							
						街路整備				

まちづくりの取組み状況

施策③ 防災性の向上

■地区計画の策定、関連都市計画の変更、区画街路第4号線を中心とした延焼遮断帯と地区施設道路の位置づけによる道路ネットワークの形成



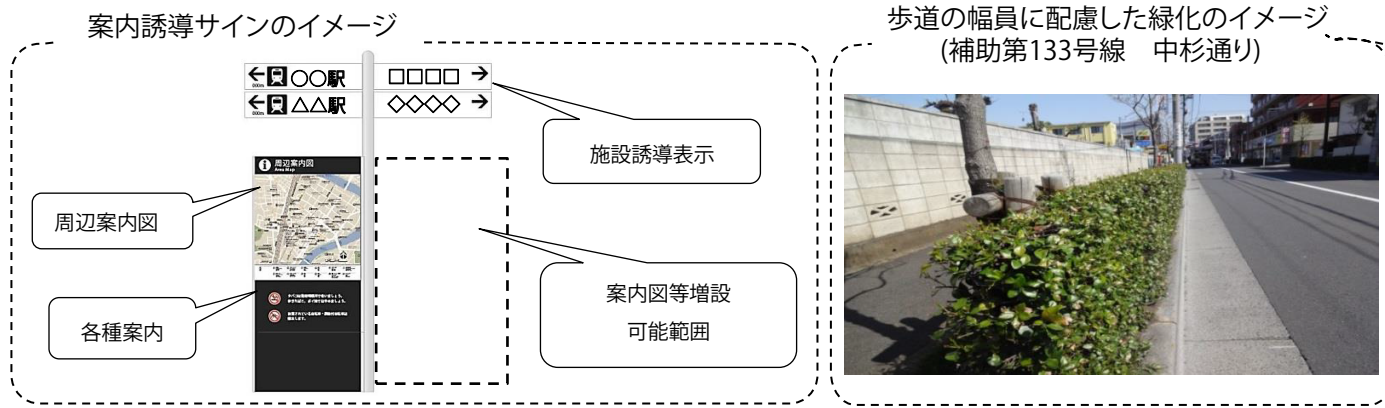
上図の沼袋一・二・三丁目及び四丁目、新井三丁目及び四丁目、江古田四丁目地区(赤点線内)において、「沼袋区画街路第4号線沿道地区地区計画及び関連都市計画の変更」を、平成30年3月7日に都市計画決定しました。また、延焼遮断帯の形成を図るため、平成30年4月1日より、区画街路第4号線の計画線から沿道30mの範囲において、耐火建築物への建替えを助成する、「都市防災不燃化促進事業」を導入しました。今後は区画街路第4号線の東西に広がる木造住宅密集地域の防災性を向上させるため、現道を活用した幅員6m以上、間隔約250mを基本とする道路ネットワーク(区画道路)を地区施設道路に位置付け、整備を図ります。

主な展開(年度)	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
③防災性の向上										
区画街路第4号線の沿道建物の不燃化促進事業										
道路ネットワークの整備										

現在

施策④ 自然や歴史文化資源を活用したまちづくり

区画街路第4号線の整備に合わせた緑化や、沼袋駅周辺や新井薬師前駅周辺に豊富に点在する歴史文化資源へのまち歩き・回遊を誘導するため、案内誘導サインの配置など、まちづくりの進捗に合わせて検討を開始します。



主な展開(年度)	2017	2018	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
④自然や歴史文化資源を活用したまちづくり									
案内表示やWi-Fi、歴史文化資源を結ぶ回遊ルートの整備									
緑化									

現在